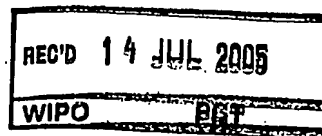


特許協力条約

PCT

特許性に関する国際予備報告 (特許協力条約第二章)

(法第 12 条、法施行規則第 56 条)
[PCT36 条及びPCT規則 70]



出願人又は代理人 の書類記号 W0400T1	今後の手続きについては、様式PCT/IPEA/416を参照すること。	
国際出願番号 PCT/J P 2 0 0 4 / 0 0 9 0 9 7	国際出願日 (日. 月. 年) 28. 06. 2004	優先日 (日. 月. 年) 10. 07. 2003
国際特許分類 (IPC) Int.Cl. ⁷ B 0 1 D 5 3 / 3 4, 5 3 / 6 4, 5 3 / 6 8, 4 7 / 0 0, C 0 2 F 1 / 2 8.		
出願人 (氏名又は名称) 太平洋セメント株式会社		

<p>1. この報告書は、PCT35 条に基づきこの国際予備審査機関で作成された国際予備審査報告である。 法施行規則第 57 条 (PCT36 条) の規定に従い送付する。</p> <p>2. この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で <u>3</u> ページからなる。</p> <p>3. この報告には次の附属物件も添付されている。</p> <p>a. <input checked="" type="checkbox"/> 附属書類は全部で <u>2</u> ページである。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 補正されて、この報告の基礎とされた及び/又はこの国際予備審査機関が認めた訂正を含む明細書、請求の範囲及び/又は図面の用紙 (PCT規則 70. 16 及び実施細則第 607 号参照)</p> <p><input type="checkbox"/> 第 I 欄 4. 及び補充欄に示したように、出願時における国際出願の開示の範囲を超えた補正を含むものとのこの国際予備審査機関が認定した差替え用紙</p> <p>b. <input type="checkbox"/> 電子媒体は全部で _____ (電子媒体の種類、数を示す)。 配列表に関する補充欄に示すように、コンピュータ読み取り可能な形式による配列表又は配列表に関連するデータを含む。(実施細則第 802 号参照)</p> <p>4. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 第 I 欄 国際予備審査報告の基礎</p> <p><input type="checkbox"/> 第 II 欄 優先権</p> <p><input type="checkbox"/> 第 III 欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成</p> <p><input type="checkbox"/> 第 IV 欄 発明の単一性の欠如</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 第 V 欄 PCT35 条 (2) に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明</p> <p><input type="checkbox"/> 第 VI 欄 ある種の引用文献</p> <p><input type="checkbox"/> 第 VII 欄 国際出願の不備</p> <p><input type="checkbox"/> 第 VIII 欄 国際出願に対する意見</p>
--

国際予備審査の請求書を受理した日 02. 05. 2005	国際予備審査報告を作成した日 29. 06. 2005	
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/J P) 郵便番号 100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目 4 番 3 号	特許庁審査官 (権限のある職員) 本間 友孝 電話番号 03-3581-1101 内線 3468	4 Q 9632

様式PCT/IPEA/409 (表紙) (2004年1月)

第 I 欄 報告の基礎

1. この国際予備審査報告は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎とした。

☐ この報告は、_____ 語による翻訳文を基礎とした。
それは、次の目的で提出された翻訳文の言語である。

☐ PCT 規則 12.3 及び 23.1(b) にいう国際調査

☐ PCT 規則 12.4 にいう国際公開

☐ PCT 規則 55.2 又は 55.3 にいう国際予備審査

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第 6 条 (PCT 14 条) の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)

☐ 出願時の国際出願書類

☒ 明細書

第 1-10 _____ ページ、出願時に提出されたもの

第 _____ ページ*、_____ 付で国際予備審査機関が受理したもの

第 _____ ページ*、_____ 付で国際予備審査機関が受理したもの

☒ 請求の範囲

第 2-8, 10-15 _____ 項、出願時に提出されたもの

第 1, 9 _____ 項*、PCT 19 条の規定に基づき補正されたもの

第 _____ 項*、_____ 付で国際予備審査機関が受理したもの

第 _____ 項*、_____ 付で国際予備審査機関が受理したもの

☒ 図面

第 1-3 _____ ページ/図、出願時に提出されたもの

第 _____ ページ/図*、_____ 付で国際予備審査機関が受理したもの

第 _____ ページ/図*、_____ 付で国際予備審査機関が受理したもの

☐ 配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. ☐ 補正により、下記の書類が削除された。

☐ 明細書 第 _____ ページ

☐ 請求の範囲 第 _____ 項

☐ 図面 第 _____ ページ/図

☐ 配列表 (具体的に記載すること) _____

☐ 配列表に関連するテーブル (具体的に記載すること) _____

4. ☐ この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT 規則 70.2(c))

☐ 明細書 第 _____ ページ

☐ 請求の範囲 第 _____ 項

☐ 図面 第 _____ ページ/図

☐ 配列表 (具体的に記載すること) _____

☐ 配列表に関連するテーブル (具体的に記載すること) _____

* 4. に該当する場合、その用紙に "superseded" と記入されることがある。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性(N)	請求の範囲 1-15	有
	請求の範囲	無
進歩性(IS)	請求の範囲 1-15	有
	請求の範囲	無
産業上の利用可能性(IA)	請求の範囲 1-15	有
	請求の範囲	無

2. 文献及び説明(PCT規則70.7)

請求の範囲1-15に係る発明は、国際調査報告で引用された何れの文献にも開示されておらず、当業者にとって自明なものでもない。

請求の範囲

1. 活性炭を添加せずに、燃焼排ガス中のダストを集塵する集塵機と、
該集塵機を通過した燃焼排ガス中の水溶性成分及びダストを捕集する湿式集塵機と、

該湿式集塵機を通過した燃焼排ガス中の NO_x 及びダイオキシン類を分解して除去する触媒塔とを備えることを特徴とする燃焼排ガス処理装置。

2. 前記触媒塔の前段に、前記湿式集塵機から排出された燃焼排ガスを加熱する再加熱器を備えることを特徴とする請求の範囲第1項に記載の燃焼排ガス処理装置。

3. 前記集塵機を通過した燃焼排ガスに酸化剤を添加する酸化剤添加装置を備えることを特徴とする請求の範囲第1項または第2項に記載の燃焼排ガス処理装置。

4. 前記湿式集塵機から排出されたスラリーを固液分離する固液分離機と、

該固液分離機で分離された液体中の水銀を吸着する水銀吸着塔とを備えることを特徴とする請求の範囲第1項、第2項または第3項に記載の燃焼排ガス処理装置。

5. 前記触媒塔の後段に、該触媒塔から排出された燃焼排ガスをを用い、前記再加熱器から供給されたガスを昇温する熱回収器を備えることを特徴とする請求の範囲第1項乃至第4項のいずれかに記載の燃焼排ガス処理装置。

6. 前記酸化剤は、次亜塩素酸ソーダ及び／またはオゾンを含むことを特徴とする請求の範囲第3項、第4項または第5項に記載の燃焼排ガス処理装置。

7. 前記湿式集塵機は、ミキシングスクラバーであることを特徴とする請求の範囲第1項乃至第6項のいずれかに記載の燃焼排ガス処理装置。

8. 前記燃焼排ガスは、セメントキルン排ガスであることを特徴とする請求の範囲第1項乃至第7項のいずれかに記載の燃焼排ガス処理装置。

9. 活性炭を添加せずに、燃焼排ガス中のダストを集塵し、

集塵後の燃焼排ガス中の水溶性成分及びダストを湿式捕集し、

湿式捕集後の燃焼排ガス中の NO_x 及びダイオキシン類を触媒を用いて分解、除去することを特徴とする燃焼排ガス処理方法。

10. 前記燃焼排ガス中の NO_x 及びダイオキシン類を触媒を用いて分解、除去する前に、前記燃焼排ガスを加熱することを特徴とする請求の範囲第9項に記載の燃焼排ガス処理方法。
11. 前記集塵後の燃焼排ガスに酸化剤を添加することを特徴とする請求の範囲第9項または第10項に記載の燃焼排ガス処理方法。
12. 前記湿式捕集によって発生したスラリーを固液分離し、
分離された液体中の水銀を吸着除去することを特徴とする請求の範囲第9項、第10項または第11項に記載の燃焼排ガス処理方法。
13. 前記湿式集塵機での前記排ガスの滞留時間が1秒以上、10秒以下であることを特徴とする請求の範囲第9項乃至第12項のいずれかに記載の燃焼排ガス処理方法。
14. 前記酸化剤は、次亜塩素酸ソーダ及び／またはオゾンを含むことを特徴とする請求の範囲第11項、第12項または第13項に記載の燃焼排ガス処理方法。
15. 前記燃焼排ガスは、セメントキルン排ガスであることを特徴とする請求の範囲第9項乃至第14項のいずれかに記載の燃焼排ガス処理方法。